

令和6年度 八王子市立南大沢中学校の学校評価(自己評価)について

1 教育目標

・よく学び、創造する生徒 ・進んで協力し、思いやりのある生徒 ・健康で、逞しい生徒

2 めざす学校・・「明日も行きたくなる居心地の良い学校」

- ①確かな学力を身に付ける。 ②自らの将来に向けて希望をもって卒業する。
- ③基本的生活習慣を身に付ける。 ④人権が守られ安心して学校生活を送ることができる。
- ⑤保護者・地域から信頼される。

3 今年度の基本方針

- ①校内外での研修を通して教員の授業改善を進め主体的・対話的で深い学びの実現のもと、生徒の学力向上を図る。
- ②八王子市部活動改革の方針にのっとり、令和7年度から新たな形で部活動を実施できるよう準備を進める。
- ③新たな不登校を生まない対策と現に不登校(傾向)の生徒への支援の充実を図る。
- ④学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等を推進し、いじめを許さない学校を実現する。
- ⑤柏木小学校及び南大沢小学校との小中一貫教育をさらに充実させるとともに、保護者、地域、関連諸機関との連携を強め、地域の特色を生かした地域教育の推進を図る。

4 具体的な取組

(1)授業(学習)の取組

- ①教材研究に努め、指導方法を工夫して、分かる授業・成就感がもてる授業を行う。
- ②1時間の授業目標をしっかりと提示し、最後には振り返りを行うことでその時間の内容の定着を図る。
- ③授業・学習活動は、ICT を積極的に活用し、生徒自身が、考えたり、調べたり、比較したり、議論したりするなど、生徒が活動する場面を重視した授業方法へ改善していく。
- ④生徒・保護者に信頼される評価・評定を行う。
- ⑤朝読書を継続して行い、落ち着いた1日のスタートを切らせる。
- ⑥放課後や長期休業中に補習授業を行い、学習内容の習得が不十分な生徒の支援を行う。
- ⑦学校サポーターやインターンシップ、都立大学生ボランティアなど外部人材を活用し、個別指導を充実させる。
- ⑧通常学級と特別支援教室の連携を強め、特別支援教育の視点から一人一人の特性に応じた学習指導を行う。
- ⑨生涯に渡りスポーツに親しめるよう興味・関心を高め、基礎体力や運動能力の向上を図る。

(2)学校生活の取組

- ①部活動再編委員会を中心に、令和7年度からの部活動について生徒の思いも取り入れながら再編を進める。
- ②全教職員が共通理解の下、生徒の内面に対する理解に努め、生徒の健やかな成長を促し、心の健康を保てるよう予防的な生活指導に努める。
- ③校内全体で「あいさつ」を心掛け、気持ちよくあいさつする習慣をつくる。
- ④話し手を見て、話を静かにしっかりと聞く習慣をつくる。
- ⑤場に応じた正しい言葉遣いができる習慣を身につける。
- ⑥社会のルール・マナーを守れる生徒を育成するため、まずは、学校のルール・マナーをしっかりと守れるよう全教職員で同一歩調の指導を行う。
- ⑦生徒会活動、ボランティア活動、地域行事へ参加などを通して、より良い人間関係を築く力、地域に貢献しようとする態度、自治能力の育成を図る。

(3)不登校・いじめに関する取組

- ①いじめに関する調査を毎学期行うとともに、子ども見守りシートの活用と教員による生徒の常時観察、週に1度の学校いじめ対策委員会開催によりいじめを見逃さない環境づくりを行う。 ②いじめ予防の観点から朝礼、道徳授業、行事やその他の活動等、あらゆる場面で自尊感情・自己肯定感を高め、思いやりの心を培う指導や講話を適宜実施する。
- ③1学期に「いのちの大切さを共に考える週間」を実施、すべての教科でいのちの大切さについて触れる授業を行う。
- ④全学年で Q-U 調査を実施して、生徒全員の個性や悩みを把握、不登校の未然防止や早期解決を図る。
- ⑤支援教室(フォレストルーム)を設置して、教室に入れない生徒が利用できる居場所づくりを行う。
- ⑥スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー他と連携し、不登校生徒の抱えている問題の解決を図る。

(4)小中一貫教育、地域連携の取組

- ①小中一貫教育の日を3回設け、互いの児童・生徒の様子を確認し、9年間で育成する児童・生徒像について理解を深める。
- ②本校の教員が2つの小学校へ出向き、年間を通して、授業や授業補助を行う。
- ③小中の児童・生徒が合同で行う活動 ・中学生が走り方等の指導に出向く。
・中学校において、授業体験・部活動体験を行う。 ・中学校において、中学校の合唱祭に児童(6年生)を招待する。
- ④9年間を見通した家庭学習の充実のため、タブレット端末を利用したドリル型学習コンテンツ等の活用を共有する。
- ⑤PTA 活動や地域活動に積極的に参加する教員・生徒を増やすとともに、地域人材を活用した取り組みを実施する。

令和6年度の自己評価

(1)授業(学習)の取組について(特別支援教育を含む)

授業評価について、肯定的な回答が生徒 89.3%、保護者 83.1%(不明 9.9%)と教員が授業に工夫して取り組む姿勢について好評価である。教員の自己評価では昨年度が 80%だったため、「次年度の重点目標には、ICT 活用を中心とした授業改善を挙げていくので、100%の教員が工夫できたと回答できるように取り組んでいく」と課題に挙げたところ、今年度は、自己評価で、良い・まあ良いと回答している教員が 100%となり課題を達成できた。これは重点方策として、「授業研究を組織的に行う」「教員全員が年間1回以上の校外での研修や指導教諭の模範授業に参加」の実行が年間通して行えたことが大きいと考える。次に生徒自身の意欲面について、「落ち着いて学習に取り組んでいる」と答えた生徒は 84.2%で昨年度の 85.2%とほぼ同じである。授業観察に校内をめぐってみても多くの生徒が前向きに取り組んでおり、授業に関しては意欲的であると感じる。さらに定着度を伸ばすために、学習支援策を次年度も継続していきたい。支援員の配置やみなさわ教室との連携を活かして個々の特性に応じた個別支援を充実させていくことを重点としたい。

(2)学校生活の取組について

命の大切さの指導について、生徒 88.3%、保護者 84.5%が好評価である。この数値は昨年度とほぼ変化していない。「先生たち(学校)は生活指導(の目標やきまり)を適切に指導している」について、生徒 79.2%、保護者 80.2%が好評価である。保護者では逆に適切でないと感じている方も 10%近くいるので、教員側の足並みがそろった丁寧な指導と納得いただける説明を心掛けるよう努めていきたい。

生徒自身の評価では「きまりを守っていると自覚している生徒」が 80.1%で昨年度 89.4%より 10%近く下がっており、さらに一昨年度の 90%から見れば下がり続けているとも言えるので心配である。規範意識の低下は世の中全般では感じていたが、本校でも現れてきていると感じるので、朝礼や式辞での講話、道徳授業、各教科の中でも自分を守るための規範意識について指導を進めていきたい。

生徒指導全体では、生徒会を中心とした生徒主体のいじめ防止の取組や校内環境美化の取組など、自分たちで学校生活を良くしていこうという自主自立の方向性で指導できている。

部活動改革推進であるが、令和9年度に向けての移行計画はしっかりできた。顧問の人事のことが不明な部分はあるが、在校生や小学校 4～6年生の児童、保護者にも説明できたので、今年度やるべきことはすべてできたといえる。次年度以降、順次進めていきたい。

(3)不登校・いじめに対する取組について(人権教育、命の教育を含む)

いじめに対する取組については、保護者 74.7%、生徒 81.6%が好評価である。「わからない」が 15%～18%もいるので、学校だより、ホームページ、保護者会等で繰り返し説明していきたい。今年度もいじめ認定は数件あるが、どれも軽微で解決したものや様子観察中がほとんどである。早期発見のため2か月に1回のいじめアンケート調査や定例開催のいじめ対策委員会を中心にいじめ撲滅へ向けて力を尽くしていく。QU 調査を活用した学級経営は、心理士の講師を招いての実践的な研修を行ったことで、かなり指導に活かされたと思われる。次年度以降もこの研修を継続していく。

不登校予防・支援の取組については、昨年度以降継続している方策をすべて行えた。居場所づくりのフォレストルームに通えた生徒は今年度も進路をいち早く決定することができた。フォレストルームでの教員との学習は、意欲を高め、未来へ向けての希望をもたせる成果があったと考えられる。次年度は、不登校対応巡回教員の巡回も始まる予定なので、その教員と連携した形に変え継続していく。

(4)小中一貫教育(南大沢中学校ブロック)や地域連携について

丁寧な対応と地域連携において、保護者は以下の結果である。

「学校は保護者に対して、たよりや HP・メールなどで適切に情報を提供している」好評価 88.7%

「子どもを南大沢中学校に通わせて良かった」好評価 90.2%

「学校は小中一貫教育を特色ある取組として行っている」好評価 91.6%

と、学校評価アンケートでも高い評価の3つとなっている。

各種の情報発信はもちろん、保護者の方からの相談やクレームにも丁寧に対応し、最終的に納得いただけるような指導や対応を引き続き全教職員で心掛けていきたい。

柏木小、南大沢小、南大沢中の3校での生徒児童交流等の小中一貫教育が今年度も順調に進められた。教員による授業体験、部活動体験をはじめ、生徒による児童への走法指導、授業体験時の本校生徒による授業アシスタント交流、生徒会児童会交流、職場体験での中学生による学習指導など幅広く行えた。また、今年度はサブジェクティーチャーを活用した、中学教員が小学校へ年間通して算数を教えに行く取組も進められた。算数の基礎力定着や本校への進学時の不安解消に繋がるものとなった。次年度以降も教員間、生徒児童間、教員生徒児童間の交流機会を増やしていきたい。

(5)その他

避難訓練は予定通り全日程を実施できた。避難訓練では、火災想定、地震想定、不審者侵入想定など幅広い形式で行えた。安全指導は、生活指導主任が中心となり、多種多様な方面の指導が行われていた。生徒の 90.9%、保護者の 90.1%、教員の 100%が好評価である。